

アフリカ豚コレラについて

豚の感染症の一つにアフリカ豚コレラがあります。この病気は日本では撲滅した豚コレラに似た症状を示し、突然死、40～42℃の発熱、チアノーゼなどを呈し、死亡率は100%近くなります。日本では口蹄疫や高病原性鳥インフルエンザなどと同様に特定家畜伝染病7疾病の1つにあげられています。豚コレラと異なり、有効なワクチンも開発されていないため、一度発生があるとその被害は甚大となり、1978年に本病が発生した中南米の国、ハイチでは国内の豚を全て殺処分し、国外から豚を導入したことがあります。

名前から受ける印象通り以前はアフリカに限局していた病気ですが、2007年ぐらいからヨーロッパやロシアで発生が見られるようになりました。野生イノシシが媒介したものと考えられています。そして2017年3月にヨーロッパから何千キロと離れたロシアのイルクーツク州での発生が報告されました。ここはバイカル湖に近い場所であり、東アジアに侵入するのも時間の問題と思われま

す。日本への侵入のリスクも高まっています。水際の検疫作業が最も重要であると思われま

すが、農家の方々も病気の発生している国を訪問された際には、家畜を飼養している農場や、生肉を扱っている市場に近づかない、また、肉製品を国内に持ち込まないなどしていただき、本病の日本への侵入を防ぎましょう。